派遣状況報告書

派遣者氏名	中島　拓也
所　　属	学部・研究科　　学科・専攻　　学 年 新領域創成科学研究科　　海洋技術環境学専攻　　修士１年
派 遣 期 間	2011 年　9 月　26 日　～　2011 年　12 月　31 日（ 3 ヶ月間）
派 遣 状 況	１．派遣先： （１）大学名　Imperial College London （２）学部学科・研究科専攻名　Department of Chemical Engineering ２．派遣中の研究及び授業の履修状況等 （１）派遣中の研究及び授業の履修状況 授業は以下の４科目を選択し、他の修士課程の生徒とともに 10 週間講義に出席した。 ● Environmental Engineering (3 hrs) ● Colloid and Interface Science (3 hrs) ● Particle Engineering (2 hrs) ● Advanced Process Optimization 1 (3 hrs) その他に、海外学生用の授業として、English Fluency class、Listening class、その他 reading や writing のプログラムを受講した。Professional Skills Workshop にも参加し、就職活動におけるノウハウを学んだ。 研究に関しては日本で行っていたテーマを引き続き行った。 Dr. Helgardt の研究グループに所属し、隔週で行われる研究会に出席した。 12 月には自分の研究内容について、他の博士課程の学生の前でプレゼンテーションを行った。

派 遣 状 況	（２）派遣中の成果・課題
	Advanced~、Colloid~では授業中にプロジェクトが課された。
	Advanced~ではプラント設計時等で重要な問題最適化において一般的に用
	いられるプログラムファイルを利用して計算を行った。
	Colloid~では他の学生と共同で Foam Stability に関する Literature Review
	を書いた。また界面における物質の挙動についての基礎知識を得ることがで
	き、自分の研究の理解の助けにもなった。
	Environmental~では環境リスク評価、汚染物質の浄化方法などについて、
	化学工学的視点から詳しく学ぶことができた。
	Particle~では、自分の研究テーマである多孔質媒体中でのハイドレート生成
	に関連することを学ぶことができ、今後の研究の幅を広げうるものとなった。
	各授業の最終レポートとして、自分の研究と関連するポイントをフォーカス
	しながら執筆し、上記プロジェクトと合わせ計 46 枚にまとめた。
	最初は自分の英語力に自信がなくしゃべりかけることを苦に感じていたもの
	の、話しかけ続けているうちに間違っていても伝わればいいと開き直ること
	ができた。多くの人々に話しかけ、多くの友達を作ることができたのは、本
	留学生活が楽しいものとなった最大の要因であった。
	Imperial College は留学生が多い学校でもあり、世界各国から学生が集まっ
	ていた。いろいろな国の学生と話ができ、また自分の将来に向けての通過点
	として留学してきた意識の高い学生にも多く出会える新鮮で刺激的な環境だ
	った。
	課題として、自分の修士研究に関して大きな成果を挙げられなかったことが
	ある。ともに授業を受ける修士課程の学生は研究のスタートが夏学期からで
	あるため、自分の研究と関連する博士課程の学生とコネクションをつくり、
	議論する機会を設けられれば、修士研究という意味でも有意義なものになる
	と考える。
	3 ヶ月という短期間ではあったものの、世界の多様な文化に触れることがで
	きた。日本ではなかなかできない経験も多く、今まで考えなかったことにつ
	いて考えさせられることもあった。自分の将来、また世界に関する視野を広
	げる大きな契機になったと感じている。